つむぐ

沖縄県立向陽高等学校一年 賀数 和心

常磐に輝く大地は
静かに賑わう声を聴いている
青く眩しい海は
かすかに息をするような波を立て
白い花を咲かせた月桃は
八十年前のあの日のことを考えさせる

深い森のガマから聞こえる
もう終わりだ 鎌はないか 包丁はないか
毒薬の注射を持った看護婦に集まる住民
日本兵により
ガマを追い出された命

咲き誇るデイゴの赤
それは
生きたいが叶わなかった命の血か
爆弾の跡が残る土に
たく生きるガジュマルは
幾多の命と人生を語る

母の手で泣き止んだ
泣く我が子
日本の女性として恥ずかしくない死を
日本兵から手榴弾を手渡されたときの言葉
今も残る頭部の傷は
集団自決で父の手によってできた傷

大切なものを
守りたいものを
永遠になくす
そして
二度となおらない
漆黒のかなしみときず

八十年という年月が流れても
沖縄戦の忘れたい
消し去りたい記憶は
心から離れることはない
時さえも
解決してくれない

平和の礎に刻まれた名前
一人ひとりが確かに生きていて
名前の数だけ
人生 夢 家族が
確かにここにあった

年齢も 性別も 国籍も関係なく
名前が刻まれる礎が語るのは

沖縄の心
そして
平和への希求だ

わたしたちは
一人ひとりを感じ
戦争は悲惨なものだと
決して忘れてはいけない
なぜ
多くの人の命が失われたのか
なぜ
戦争は私達から日常を奪ったのか
無数に出てくる
答えのない問い

いつの日か
この答えが出せた日には
平和が待っていると信じて
わたしは
平和を考え続ける

わたしたちは知っている
この島の人々のあたたかさを
いのちの大切さを
二度と繰り返してはならない
ヒトを失う戦争を
この島の常磐を
愛し紡ぐことを
そして
次の世代に 世界に
平和を発信し語り継ぐ

わたしたちは平和を考え続ける
未来の話ができること
笑ってごはんを食べられること
平和な世を紡ぐために
ちむぐくるを育む

Life is a treasure
命どう宝

愛する故郷のために
今年も六月二十三日に
いのちに感謝して
生きるよろこびを噛みしめて
平和を祈る

平和を永遠に紡いでいくことを誓う